

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第25回

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第25回流域委員会				治水 (洪水被害の軽減)	激特災害指定を受けましたこと、大変ありがたいと思っておりますが、1日も早く、可及的速やかにこういった河床の掘削等、やれるところを促進していただきたいをお願いを申し上げておきたいと思っております。	足羽川では、激特災害指定を受けたことに感謝するとともに、再度災害が発生しないよう一日でも早い復旧を行って欲しい。	2501
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	足羽川ダム地点から天神橋地点までの到達時間のグラフがありまして、その中の説明で、ダムで最大790m ³ /s貯留するということがあります。整備メニューで、洪水調整容量が1,370万m ³ ですよね。1,370万m ³ 貯留できると、なぜ最大790m ³ /s貯留できるのかを教えてください。	天神橋地点で2,400m ³ /sを1,800m ³ /sに調節するために足羽川ダムで最大790m ³ /sを貯留して洪水調節していると解釈していいのかわかるか？	2502
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	天神橋のところは出ていって、一応2,400 m ³ /sというのが流量確率で100分の1相当であるという説明はされているんですが、ほかの例えば中角であったり深谷であったり、今提案されているこの流量でいいのではないかとこの流量が、それぞれどれくらいの流量確率になっているのかという点をもう一度皆さんに情報提供していただいたら判断ができるのではないかと思います。	天神橋の検討対象流量を審議するには、他の検討対象地点（布施田・中角・深谷・三尾野）で提案されている流量が、それぞれどれくらいの流量確率なのかを比較してみると判断しやすい。	2503
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	最近の降雨というものが本当にどういうパターンで起きたかということ、その辺を考えたときに、こういった降雨のパターンが本当に短期集中型ではなかったのか。必ずしも集中的に短い間にごとと降ってくるというのが、現在特異なパターンなのかどうかという点につきましては若干疑問も持ちます。 どれが対象となる、あるいは妥当なといえましょうか、特異でないというか、そういうパターンなのかという形を考えたときに、非常に理論的に、あるいは物理的にこれが特異ではないということは非常に答えにくい。ですから、福井豪雨というものを対象にするということであれば、少なくとも福井豪雨に対しては安全に流し得るような河道でいいのではないかと。	最近の降雨パターンを考慮すると、福井豪雨のような短期集中型の降雨は特異でないと思う。福井豪雨に対しては安全になるよう整備すべき。	2504
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	福井の場合には三川合流に近いということで、どういう形のパターンをつくらうかということ非常に悩んできたわけです。理想的に言うと、ある物理的に流量を決められて下流側の水位が決定できるという形であれば言うことはないんですけども、これは非常に難しい。 足羽川の下流の水位ということに他の流域、日野川流域とか、その辺での洪水の影響という形で考慮していただきたい。流量という形ではなかなか換算しにくいんですけども、水位という形で持って表現してやれば、今回の福井豪雨に対しては、何とかもたせようということで、かえって説明もしやすいのではないかと。	九頭竜川は三川が合流しているため、降雨パターンや流量での評価が難しく、水位の状況から判断するののも一つの方法ではないか。	2505
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	内水対策としてポンプアップの面では現状でよいのかどうか。都市計画の中でもう少しきちんと将来展望を詰めていく必要があるのではないかと気がいたしました。	内水対策については、福井豪雨による内水被害の状況、排水ポンプの設置状況や将来の都市計画等を踏まえて行っていくべき。	2506
第25回流域委員会				治水 (洪水被害の軽減)	私どものところでも台風23号のとき、平成16年7月18日の半分ぐらいの降水量でしたけれども、もう堤防のいっぱいまで来ました。というのは川底が上がっているからで、長期的な展望もいいたければ、早くとにかく原形復旧、できればもっと丈夫なものに早くしてほしい。	足羽川の河床には土砂が堆積し、河川水位が上昇しやすい状況になっているため、河床掘削等の対策を早く行って欲しい。	2507
第25回流域委員会				地域との連携 (地域住民)	先ほど濁水の説明ありましたが、今年のような豪雨です。また、台風が度々通っていきまして。そういうものを見ていきますと、裏には温暖化という問題があるのかなと思います。我々は降ってきた雨をどう抑えたいかという治水を考えますが、降らないように、どう降らないようにしていくべきかという温暖化対応をやはり考えていく必要があるんだろうと思います。ですから、私の在野では、有史以来の雨だったけれども、来年来ないとは限らないという感じを受けているわけで、そうした人々の不安に対して、安全をわかりやすく説明をしていく必要があるのではないかと私は思っています。	福井豪雨のような豪雨が来年も発生する可能性があるため、人々のそうした不安を解消するために、治水対策をわかりやすく説明していくことも重要である。	2508
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	もう一つは、足羽川整備後の水位です。これは、激特事業後の水位をダムなしで出したものが丸の赤線だったと思います。これはぎりぎり、青いハイウォーターレベルを多少超えるぐらいだと見えます。何らかの処置をすればダムがなくてもいけそうな図ですが、今回は30、40年に1回起こる日野川の水位上昇1mを考えると、危険水域になるということでダムを検討するとの考え方でいいですか。	足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）のグラフには、30～40年に1回起こる日野川との合流点の水位上昇を1.0mと想定して足羽川の危険水域を示しているが、この結果によって足羽川ダム計画を検討するという考え方のなか？	2509
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）の場合、集中豪雨型のときに、先ほども言いましたように、足羽川の下流の水位、これが非常に問題になってくるわけです。それを下流端水位1m上げたというのは、30、40年に一度ということですけども、そういった例というのは、その水位が過去にも起きていたのかどうかですね。これが今までも起きていない特異なパターンなのか、その辺はいかがでしょうか。	足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）のグラフでは、福井豪雨時に比べて日野川との合流点の水位が1.0m高く想定しているが、その水位は過去にも起きていたものか？ 日野川の水位についての整理が必要である。	2510
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	来年またとんでもないものが降った場合に右往左往しないためには、2,400m ³ /sという結論になるにしても、それをどう論理で決めたかをしっかり確認しておく必要があると思うんです。それで、特に福井豪雨があったからといって論理を変えたわけではない、結果は変わりましたが論理は変えたわけではないということを確認しておく必要があると思います。 それで最後に、戦後最大降雨が平成16年7月パターンで降った場合という5,200m ³ /sを棄却するわけですけども、それをなぜ棄却したかということが重要だと思うんですね。この場合は、流量確率が500分の1という安全度は、安全度として求め過ぎであるというのが第1です。それから、この洪水に対処するにはとんでもないダムが必要で、とても対処できない。30年ぐらいのスパンで物考える場合に不可能であるというのが第2です。その二つの論理で棄却すべきだと思います。	検討対象流量の選定に際しては、福井豪雨より大規模な洪水が発生したときのために、その考え方を論理立てて整理しておく必要がある。流量確率が500分の1という安全度は安全度として求め過ぎであるというのが第1。それから、この洪水に対処するには30年ぐらいのスパンで物考える場合に不可能であるというのが第2。その二つの論理で棄却すべき。	2511
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	ただ当委員会としては、足羽川なら足羽川にダムでもって治水は必要であるということが明記されれば、行政側でそれに見合う立派なダムを行政の方でしっかりと住民に対応してこたえてもらうというので僕はいいいのではないかと。現実には、福井市民にとっては、また、河和田地区とかいろいろな流域の町民、今度の豪雨災害に襲われた地域の者にとっては、こういうようなことが二度と起きないような、安心して住める町をつくらなければならないというのが切なる願いでございます。	流域委員会として、足羽川の治水にはダムが必要であると判断し、行政側には、福井豪雨の災害に襲われた地域の者たちが安心して住める町をつくらなければならない。	2512
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	以前、福井豪雨を考えると、従来考えているよりもダム容量を2倍ぐらいにしないといけないうお話があったと思います。それで、先ほどの足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）ですが、ダムありの場合の計画河道が書かれていないんですけども、これはどうしてでしょうか。	足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）のグラフには、足羽川ダムありの場合の水位がないのはなぜか？	2513
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	激特事業をちゃんとやれば、それはそれで、ぎりぎりのところで洪水は起きないのではないかとこの思いがあったんですけども、そういう発想ではなくて、ハイウォーターを超えるということは、やはりそれは非常に問題だということで、ハイウォーターを超えることについては、少なくとも足りないから、ダムとかいう次の問題へ行かざるを得ないという理解でいいのでしょうか。	足羽川整備後の水位（福井豪雨時の場合）は計画高水位を越えており、その対策としてダム等が必要なのか？	2514
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	河床掘削とか、ダムということに議論が集中しているんですけども、実現不可能と思われるぐらいパーフェクトなものを望むと、すごい規模で行われるようになる。そうすると、川の水はあふれなくても、地下水位がそれによって引き寄せられて下がることでの地盤沈下とか、いろいろなほかの弊害も恐らく考えられるんじゃないか。 そうだったら、堤防自体を強化する方法も、スーパー堤防とかじゃなくて、例えば背骨を1本、矢板じゃないけれども、何かそういうような形にしてやれば堤防は丈夫になるんじゃないかと、技術的にそういうことかなり進歩していると思うんです。そういうことを中に取り入れながら計画ということも含めていかないと、それこそ何でもつくればいいというものでもない。	足羽川の整備メニューについては、河床掘削やダム建設に審議が集中しているが、流域の環境に配慮するのであれば、堤防強化による治水対策を充実してはどうか？	2515

九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第25回

発言状況等	内容区分			分野	発言要旨	主意	I D
	質問	課題	提案				
第25回流域委員会				治水 (河川整備)	この委員会の中で、やはり今回の福井豪雨に対して、例えば、河道掘削をしたらこうなったとか、それから、今日は出てきませんでしたけれども、ダムがあればこういう形で水位が下がりますよとか、福井豪雨に対する安全性の検討、検証をこの委員会でやったということがやはり重要だと思うんです。 それがちょっとあいまいになっていたんで、例えば、ダムがあったらこういうふうには水位低下が起きますよとか、それから、今日ちょっと不明な点でいろいろ議論があいまいになった点、下流の水位の条件の与え方、こちら辺が余りきちっと書かれていなかったのだからいろいろ誤解が出てきたと思うんですけれども、そういったことで、この中でも福井豪雨に対する安全性の検討、検証を行ったという形の区切りはつけたい。	足羽川の下流端の水位条件を明確にし、河床掘削やダム等が整備された場合の足羽川の水位を整理する等、福井豪雨に対する安全性の検証は必要である。	2516
第25回流域委員会				環境・利水 (生物・景観)	瀬切れは、さっき言ったように、しょうがないじゃないかという思いがあって、それを人間がどこから水を持ってきて補完してというのは、どこか本末転倒のような気分がある。なおかつ、水が足りないことは足りないんですが、それを例えばどこか上の方のため物で冬の間のためにためておいて、足りないときに流す、それによって河川の環境ないしは正常流量という形で灌漑用水を確保するというのも一つの考え方もしれませんけれども、できれば川は川のままが一番いいと思います。	河川環境にとっては、維持流量による瀬切れの解消や灌漑用水を確保するというのも一つの考えであるが、できるかぎり川はいじらず、そのままでの状態にするべき。	2517
第25回流域委員会				環境・利水 (親水・利用)	やっぱり夏には川にそこそこの水が流れて子供たちが泳いでいる、遊んでいることが望ましいと思っているわけでございます。	夏場の河川の維持流量としては、川にそこそこの水が流れ、子供たちが遊べる状態が望ましいのではないかと。	2518
第25回流域委員会				流域委員会での検討スタンス	これは国土交通省だけではなくて、国全体で取り組まなくてはいけない中で、我々のこの足羽川の問題にしても、もちろんこうして真剣に専門家の方がいらっしゃる中で大いに勉強して、いいものを作っていきたくは思いますけれども、そここのところでやはり農林水産省でしょうか、他省ともいろいろこういった問題、大きなことをやるに当たっての意見交換といいますか、その辺のところはどこまでできているのかなというの、個人的に気になっています。	河川整備計画を立てるにあたっては、流域が抱える問題に対して、国土交通省と他省庁とが連携して議論していった欲しい。	2519
第25回流域委員会				環境・利水 (利水)	なぜ利水の人水が水を要求しないか。恐らく、この案のように、ダムをつくって水を流せば水利権分を取ると思います。水がないから、番水をして努力しているわけですね。 水を流してくれと言おうとした場合に、ダム容量が利水分増しますね。従来、農業利水は全部税金では賄われなくて、受益者が一部を負担するというになっています。だから、本当の意味の利水、環境、治水をこの場で考えるというふうにはなっていないと思います。つまり、農水系の本来の利水のお役所の方がここにいらっしゃらない。 ソフト対策として水利権の縮小変更とかありますが、そういう話し合いをするということが一つですね。	農業利水では、水が無いときには番水で対処しているが、維持流量確保のためにダムから補給されれば、水利権分は取水してしまうだろう。維持流量の確保に向けては、まず水利権の縮小変更等の話し合いが必要である。	2520
第25回流域委員会				環境・利水 (利水)	コストの話で、電力をするときには、電力会社からそれ相応のものをいただきますよね。じゃ、農業用水の場合には、そういう費用負担の問題が今まで真剣に議論されてきたのか、されてきていないのか。 悪いけれども、ただということはないだろう。費用を出しても必要なんだと訴えるべきである。今菊澤先生の話によると、あればと言われたが、それはそれでいいけれども、ダムをつくるのだから物すごいコストがかかる中で、利用者負担という視点があってもいいけれども、今までそういうことを余り聞いたことがないと思うんです。	ダム建設には莫大な費用がかかるため、利水に対してはしっかりと利用者負担を考えていく必要がある。	2521
第25回流域委員会				環境・利水 (利水)	今回ダムを治水側でつくる。それは関知していないわけですが。ダムで放流してたまたま水が流れてくれば、取る施設は持っているわけですから、自動的に来るわけですね。今回、この足羽川ダムに合わせて自分たちも利水事業を立ち上げて、共同でしたいという農民からの強い要求があれば、当然受益者負担も考えて一緒にするはずなんですけれども、ないということは要望がないということです。	農業利水が必要なら、治水側と共同して利水分も確保できるダムを要望するはずである。	2522
第25回流域委員会				環境・利水 (生物・景観)	正常流量のところとか維持流量のところに戻ってきたときに、瀬切れが起きるということですが、例えば、伏流の仕方がどうなっているのか、あるいは瀬切れの部分の流れがどうなっているのかをはっきり調べていく必要があるんじゃないかなと思うんです。	適切な維持流量を設定するためには、瀬切れの発生箇所の流水状況を把握することが重要である。	2523
第25回流域委員会				環境・利水 (利水)	榑谷ダムでは県と利水組合とで幾らかという金額を交渉中だと思うんですけれども、やはり住民は、できるということになると、それを利用したいというのが皆の願いだし、金は出したいというのがまたこれも共通している問題点です。 一応ダムでもって治水をやるということになって、一般に公聴会を開かれた場合においては、農業者の団体、または内水面の団体からもそういう意見が僕ら出てくるんじゃないかと思っています。	利水に対しては、"負担はしたくない"が"利用はしたい"というのが現状である。利水に対する要望は、今後の公聴会等で出てくるのではないかと。	2524
第25回流域委員会				流域委員会での検討スタンス	今までも何回も申し上げたんですけれども、できるだけ多くのセクションが、国土交通省だけではなくて林野庁だとか、環境庁だとか、それに類する県庁の組織もいろいろあると思うんですけれども、そういうところが連携して、何とか新しい時代の福井方式みたいなものを検討できないのかということをお願いしたいと思います。	河川整備計画の作成には、林野・環境部門等のできるだけ多くのセクションが連携して、福井らしい方式で検討して欲しい。	2525
第25回流域委員会				環境・利水 (利水)	榑谷ダムの場合は20、30年前の話ですので、農業自体が安定していました。しかし今は、時々言いますように、70代ぐらいになってきて、後継者がそのまま継いでいる場合もありますけれども、迷っている場合もあるという特殊な時代なんですね。 だから、榑谷ダムと同じような時代ではないということです。つまり、農業基盤がそれほどしっかりしていないし、後継者もきっちり人数が確保されていない。そういう状況の中でダムに出資するということは、かなりなさそうなのはします。単に様子見でそういうことをするような願じゃないので、そう私は推測します。	榑谷ダムの建設が決まった時代は農業基盤が安定していたが、現在は後継者不足等で不安定な状況である。そんな状況下で利水のためにダムに出資するのは難しいではないかと。	2526
第25回流域委員会				地域との連携 (地域活性化)	林業もそうですし、農業もそうですが、大農業だけを会社で経営するようなことになったら、第1次産業はもう壊滅です。そういうことで、農協なり、また県なりも、中産農家を育てるという意味から、ある程度の助成が僕ら出るんじゃないかと思っています。個人負担でなくして、そういう面から安心して農業ができるような施策に対して、農林省として考えるんじゃないか。個人負担でないです。僕はそう思っております。	農業に対しては、農家を育て、安心して農業ができるような施策を考えることも重要である。	2527
第25回流域委員会				環境・利水 (利水)	時代がそういうふうに変ってきていると同時に、農業関係者も環境に対する配慮、関心あるいは努力は非常に進んでいるわけです。だから、こういう時代において、みんなで非常に広い分野からこういうものをもう一度考え直すにはいい機会だと思います。	農業関係者も環境に対する配慮、努力は行っている。流域委員会は、正常流量について広い分野からもう一度考え直すいい機会である。	2528